

■趣 旨:

生物の歴史は、絶滅の歴史ともいえます。これまで地球上では、恐竜の絶滅など 5 回の大絶滅があり、その度に 70~95%の生物種が絶滅しましたが、その原因は環境や気候の変化だったと考えられています。そして現在、地球上は第 6 回目の大絶滅時代と言われています。

現在の絶滅はこれまでと異なり、ほぼ 100%、人の行為や活動に起因しています。飛ばない鳥ドードーの絶滅は、大航海時代の人の世界各地への進出が引き金になりました。そして産業革命以降、生物の絶滅は加速し続けています。一方で人という動物は、20 世紀初頭に 17 億人でしたが、現在 70 億人を突破しました。人と動物の関係を考えなければならない時代でもあります。

マンガの神様と呼ばれる手塚治虫(1928~89 年)の作品には、一貫して生命の尊厳が謳われていますが、とくに人と動物の関係を描いた作品には傑作が多くあります。手塚マンガの中では、すべての生きものが対等に描かれています。この世界観や自然観は、第 6 回目の絶滅時代の今だからこそ重要性が増してきているのではないのでしょうか。

そこで、この企画展では、人との関わりの中で消えていった動物や、今まさに引き起こされている問題を、手塚治虫のマンガとともに紹介します。そして、動物たちの現実と、手塚マンガの物語をクロスさせることで、これからの人と動物のあり方を考えます。

■会 期: 2019 年 7 月 13 日 [土] ~8 月 25 日 [日] (44 日間) 会期中無休

午前 9 時~午後 5 時 (土曜日は午後 7 時まで)

■会 場: 鳥取県立博物館 第 1・第 2 特別展示室

■入場料金: 700 円 (団体・前売 500 円) (予定) /次の方々は無料です: ◎大学生以下 ◎70 歳以上 ◎学校教育活動での引率者 ◎障がいのある方・難病患者の方・要介護者等およびその介護者

■主 催: 鳥取県立博物館・新日本海新聞社

■企画協力: 手塚プロダクション

■協 賛: 日本通運株式会社・株式会社モリックスジャパン・株式会社吉備総合電設・三和商事株式会社

■協 力: 愛媛県総合科学博物館・大阪市立自然史博物館・環境省 西表野生生物保護センター・きしわだ自然資料館・群馬県立自然史博物館・島根県立三瓶自然館・天王寺動物園・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・真庭市オオサンショウウオ保護センター

■展示構成:

I 人類が誕生する以前(地質時代)の絶滅: 三葉虫、アンモナイト、魚竜、翼竜、孔子鳥、恐竜など

II 消えた動物たち: ドードー、ニホンアシカ、ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、トキ、キタタキ、ミナミトミヨ、スジゲンゴロウなど

III 鳥取県の絶滅動物: コウノトリ、コバネアオイトトンボ、ナニワトンボ、カワラバタ、ヒョウモンモドキ、オオウラギンヒョウモン、シータテハなど /地域絶滅: ハラビロハンミョウ、マイコアカネ、ダイコクコガネ、ゲンゴロウ、ウスイロヒョウモンモドキなど

IV 手塚治虫がえがいた人と動物の物語: ニホンカモシカ×『ころすけの橋』、エゾオオカミ×『ロロの旅路』、ヒグマ×『山太郎かえる』、ライオン・スズメバチ×『ザムザ復活』、ジャガー×『大地の顔役バギ』、オオシャコガイ×『青い恐怖(ブラック・ジャック)』、イリオモテヤマネコ×『オペの順番(ブラック・ジャック)』

V 人と動物の関係を考える~ヒューマン・ネイチャー~: チュウゴクオオサンショウウオ×『オリジナルマンガ』、シカ、サル、キョン、ジャイアントパンダ、フクロギツネ、サキグロタマツメタ、アジアゾウの「和子」

VI 手塚治虫の世界(手塚治虫の紹介、書籍・グッズ販売コーナーなど)

■関連事業:

・映画上映会: 「ジャングル大帝(劇場版、1997 年)」 /2019 年 7 月 27 日(土) 10:00~12:00、14:00~16:00 (2 回上映) /当館講堂 /各回 250 名 (無料: 上映 1 時間前から整理券を配布)